

入選

## びつくりをありがとう

福岡県

福岡教育大学附属小倉小学校六年

黒木 郁臣

父のポケットには、たくさんのびつくりがつまっている。そして、まるでマジシャンのように、いきなりそのびつくりを取り出しては、ぼくや弟におどろきと喜びを感じさせてくれる。

先日、東京へ家族旅行をした時は、お母さんも一しよにびつくりさせられてしまった。その日の夕食は、ぼくの大好きなちゃんこなべ。父のおすすめの店へ向かうと、そこにはせの高い男の人が立っていた。そして、ぼく達へ笑顔で手をふっている。何とその人は、母の弟、つまりぼくのおじさんだった。ぼくも弟もびつくりしたけど、一番おどろいたのは母で、現実が理解できない顔になっていた。

「どうして? 何で?」

とたずねるぼくに、おじさんは笑いながら、

「お父さんが呼んでくれたんだよ。」

と楽しそうに答えてくれた。

「一言、教えてくれた良いのに!」

と、怒った口調の顔はとでもうれしそうだ。

こんなこともあった。ぼく達をお笑いライブに連れて行ってくれた時、父がさりげなく

「今日は面白くないね。」

と言つてがっかりさせる。しかし、これが父のびつくり計画である。その直後のぼくの動きが見えるのだろうか。大好きな芸人の出演で「ぎゃーっ!」と喜ぶ姿を想像しているのだろうか。父の目は、まるでいたずらをしている少年のようにうれしそうだ。そして、父の期待通りぼくは大喜びだった。

昨年三月の旅行はびつくりの連続だった。春を感じる暖かい日差しの中、

「暖かい服装にしないさい。」

と言われたぼくは、

「今日は寒くないよね。」

と、弟に話しながら外出の準備をした。父の車が到着したのは空港だった。期待と不安のぼくの目に、札幌行き飛行機が映った。父がポケットから取り出した今度のびつくりは北海道旅行だ。

「やった!」

と大喜びのぼくと弟。そして、出発してから帰宅するまでの父の完べきな計画に、もう一度びつくりさせられた。ぼく達を喜ばせるたくさんのメニュー。父母への感謝を心いっばい感じながら、初めてのスキーの夜をおそくまで楽しんだ。父は言う。ぼくや弟の喜ぶ顔を見るのが大好きだと。子供たちがびつくりしたり、喜んだりする姿を想像するのが楽しい。時々、母をびつくりさせるが、これは想定外らしい。父は、一つのびつくりが終了した時、次のびつくりをスタートさせているようだ。

ぼくも、いつの日か、父母に感謝を表せるビッグなびつくりを計画したい。でも今は、父の次のびつくりが楽しみだ。父のポケットの中のびつくりを全部見たい。

お父さん、いつもびつくりをありがとう。